

越後杉流通活性化センター
【越後森林館】

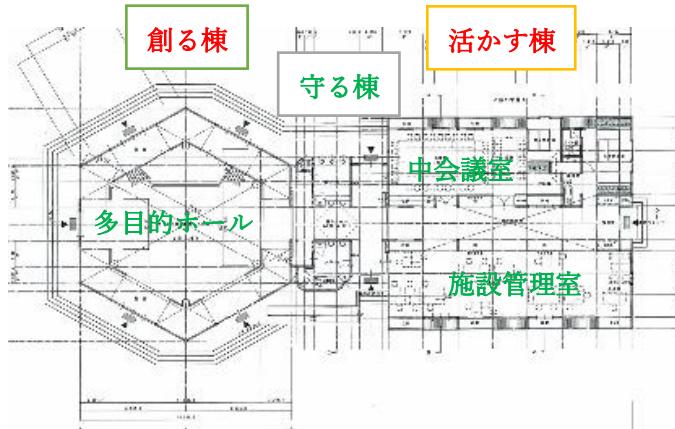


【平成 24 年 3 月竣工】

新潟県森林組合連合会
新潟市西区曽和 521-3

越後杉流通活性化センター概要

■ 平面図



■ 工事概要

この施設は、林業・木材産業等の地域産業の再生を目的とした国・県の補助事業『森林整備加速化・林業再生事業』を導入して建設したものです。

工事名：越後杉流通活性化センター

場 所：新潟市西区曽和 521-3

【工事概要】

① 施工面積

	多目的ホール棟 (創る棟)	施設管理棟 (守る棟)	施設管理棟 (活かす棟)	合計
建築面積	300.28 m ²	75.50 m ²	364.56 m ²	704.34 m ²
延床面積	395.44 m ²	71.06 m ²	343.73 m ²	810.23 m ²
構造	木造(軸組工法) 2階建て	木造(軸組工法) 平屋建て	木造(軸組工法) 平屋建て	

② 木材使用量：385.899 m³ (内県産材 379.230 m³ 県産材使用率：98%)

③ 設計監理：越後にいきる家 設計室 ※新潟職業能力開発短大教授 村尾 欣一氏

④ 工事施工：斑鳩建築 (新潟県北蒲原郡聖籠町)

⑤ 工事期間：着 平成 23 年 4 月 1 日 完成 平成 24 年 3 月 29 日 1 年間

※越後杉を内外装にふんだんに使用し、越後杉の力強さや温もり、優しさを建物全体に表現した、全館バリアフリーの施設です。

■ 建築コンセプト

新潟県で育った木をふんだんに活用し、越後に
継承された大工の技を結集して、百年以上建ち
続ける本格的な準公共木造建築物を生み出すこと。
※伝統軸組工法



■ 建築の特徴

【多目的ホール】

正六角形の平面は内陣と外陣から構成され、内陣の隅角には百年生きてきた根曲り杉(斜面で育ち根元が大きく曲がった巨木)が6本、(阿賀町 旧三川 4本、村上市 旧山北 1本、長岡市 旧柄尾 1本)から生えたようにそそり立ち、頂部の心柱：直径53cm(放射状の傘の芯)に組み上げている。金物で補強しない柱・隅木・方杖の仕口は、伝統的な組み方や納め方となっており、編み物のような繊細な美しさと骨太な構造の躍動美を併せ持つ。



■ 施設管理棟

施設管理室(事務室)は柱のないフレキシブルな空間が求められたことからトラス組(トラス工法)を行った。今回のトラス組は、ボルトや金物による補強を一切せず、木組み工夫とホゾや各種の栓止めで架構してある。



しかもトラス中央部は本来の洋小屋では、斜材と方杖によるキングポスト架構なのだが、ここでは和小屋で、地棟と地棟受梁で構成された土蔵つくりの手法で架構している。洋小屋組と代表的な和小屋組の競演となっている。

■ 使用木材関係

【使用木材量】

使用木材 : 385.899 m³

うち、国産材 : 385.899 m³

うち、県内材 : 379.230 m³ (県産材使用率 98%)

うち、越後杉ブランド材 : 63.824 m³



【使用樹種】

スギ、300年生スギ(土台)、ヒノキ、カラマツ、アカマツ、
モミ、カヤ、ホウ、クリ、ケヤキ、エンジュ、クルミ、タモ、
キハダ、リュウガン、エノキ、ケンポナシ、(全16樹種) ※見本廊下に展示)

■ 越後杉の伐採～加工～建方



伐採作業中



手斧仕上げ



手斧仕上げ



墨付け(心柱 直径 53 cm)



建て方 (多目的ホール)



建て方 (多目的ホール)



守る棟から活かす棟方向



活かす棟 廊下天井



多目的ホール(夜撮影)



多目的ホール(中央：心柱 放射状の傘の芯)